文化財を訪ねて ―見てある記―

文化財の保存修理 ―後谷遺跡出土品―

市内には建造物や民俗芸能をはじめ数多くの文化財がありますが、その中に国指定重要文化財が3つあります。川田谷泉福寺の「木造阿弥陀如来坐像」、川田谷熊野神社古墳から出土した「武蔵国北足立郡熊野神社境内古墳出土品附朱小塊若干」（埼玉県立歴史と民俗の博物館にて保管）、そして「埼玉県後谷遺跡出土品」です。今回は現在実施されている後谷遺跡出土品の保存修理について紹介します。

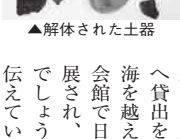
後谷遺跡出土品

後谷遺跡は市域の東部、赤堀に所在する縄文時代後期から晩期を主体とする遺跡です。これまで昭和40年以来5回の発掘調査が行われ、台地上の集落跡と水辺の生業活動域が一体として調査されました。低湿地の部分からは、台地上では残らない漆塗りの櫛や弓、木材や骨といった有機質の遺物が多く発見されました。こうして出土した遺物の内、645点が平成23年に重要文化財に指定されました。これを受け、市では平成24年度から国の補助金を受けながら、後谷遺跡出土品の保存修理を開始しました。

保存修理

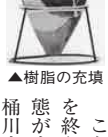
後谷遺跡から出土した土器は20年以上前に市販のセルロース系接着剤を使用して各破片を接合し、欠損部分を石膏で復元しましたが、経年変化により接着剤の本来の接合力が失われつつありました。そこで、今回の修復では接着剤や石膏を資料が損傷しないように除去した後、あらたにアクリル樹脂で破片を接合し、合成樹脂で欠損部分を復元しました。こうすることで、経年変化に対して強くなるだけでなく、将来、研究の進歩により復元部分の修正が必要になったときなどに、溶剤を使い簡単に外せるようにしました。

▲修理前の土器


▲解体された土器

復元した部分については顔料やアクリルを用いた塗料で彩色を施しました。この際、本来の部分と復元部分とが判別できるように色調をわずかに変えました。

また木器・木製品についても、出土直後に一度保存修理をしたものの、経年変化により新たにヒビなどが生じたものや、塗られている漆が浮いてきてしまったものがありました。そこでヒビに合成樹脂を補填したり、強化処理をすることにより、ヒビや漆の剥落の進行を抑えるようにしました。また、保存用の箱や展示台を作成しました。


▲樹脂の充填

▲修理後の土器

こうして保存修理を終えた遺物は、状態が安定するため、桶川市歴史民俗資料館での展示のみならず、他の博物館などへの貸出もできるようになります。ここ数年でも山梨県立考古博物館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、東京国立博物館等へ貸出をしています。そして今月からは海を越えて、フランス・パリの日本文化会館で日仏友好160周年記念の展示会に出展され、訪れた多くの人を魅了することでしょう。大切な文化財を後世へ確実に伝えていくため、また多くの人に文化財に親しんでもらうため、これからも一層文化財の保護・保存に努めていきます。

詳しくは ➡ 生涯学習文化財課 ☎788―4971（直通）